

エルニーニョ/ラニーニャ現象を背景としたアルゼンチンの経済・社会的苦境と政権交代

1. アルゼンチンにおける経済・社会的苦境の実態

アルゼンチンでは 2023 年までの数年間、次のような経済・社会状況の急速な悪化がみられた。

- ・経済成長率（実質 GDP 成長率（通年））が 3 年ぶりにマイナスに転落見込み。
- ・大干ばつ（2022/23 年）による主要穀物等（小麦、とうもろこし、大豆）の生産量、輸出額や外貨獲得額の大幅な減少並びに農牧林業部門実質 GDP の 6 四半期連続のマイナス成長（2023 年第 2 四半期、農林牧畜業のみマイナス 40.1%の大幅下落（農牧水産業は外貨の稼ぎ頭（全体の 2/3））。
- ・対米ドル為替レート的大幅な下落（177 → 828 ペソ/USD(公式レート)）と外貨購入制限に伴う輸入制限によるインフレ率（消費者物価指数の対前年比）の急騰（95% → 211%）。

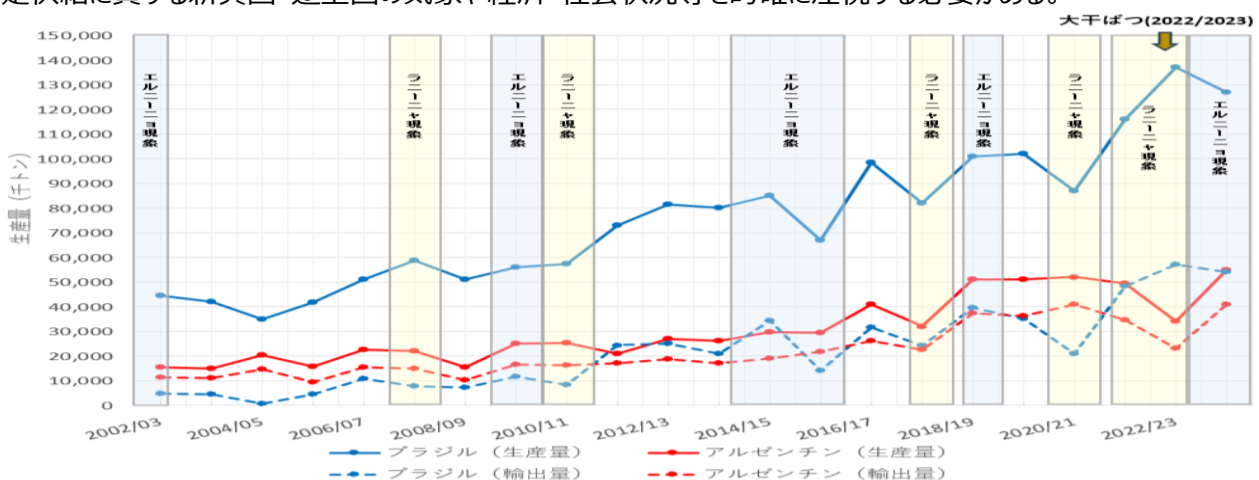
2. エルニーニョ現象/ラニーニャ現象による農業への影響

2022 年から 2023 年にかけて、連続して発生したラニーニャ現象のもと、アルゼンチンにおいて過去 60 年で最悪の干ばつが発生、穀物や油糧種子などの農産物は大幅な減収となった。近年、「気候危機」とも呼ばれる気候変動を背景とした異常気象（エルニーニョ現象/ラニーニャ現象など）が激甚化、それに相対して気温、降水量などの数値も極端な変動をみせ、異常気象が農産物の豊作、不作に直接的かつ極端に影響するようになった。

傾向としてアルゼンチンは、エルニーニョ現象期間で降水量が増大、ラニーニャ現象期間で降水量が減少する傾向。例えばラニーニャ現象期間でアルゼンチンは、とうもろこし輸出量が対前年比で半減、一方、降水に恵まれたブラジル輸出量は約 3 倍増加した。エルニーニョ現象期間に入った 2022/23～2023/24 にか、天候が回復したアルゼンチンはとうもろこし輸出量が対前年比で 2 倍増加、ブラジル輸出量は減少傾向にある（第 1 図）。

3. 異常気象、経済・社会的苦境下の 2023 年アルゼンチン大統領選挙

異常気象（エルニーニョ現象/ラニーニャ現象など）を背景とするアルゼンチン経済・社会状況が急速に悪化する中、2023 年 11 月、変革を求める有権者選択の結果、右派自由主義経済学者ハビエル・ミレイ氏が、与党候補を破り大統領に当選した。気候変動を背景とする干ばつ等の異常気象は、農産物を輸出するアルゼンチンやブラジルのような新興国・途上国に様々な経済・社会的苦境をもたらす要因となりうる。更に異常気象等の影響は、それら諸国の政権にも影響を及ぼすケースもあるため、我が国の穀物等の輸入相手国として、今後、食料安定供給に資する新興国・途上国の気象や経済・社会状況等を的確に注視する必要がある。



第1図 とうもろこし輸出国（アルゼンチン/ブラジル）の生産/輸出量

資料：USDA PS&D, 気象庁「エルニーニョ/ラニーニャ現象に関するデータ」から筆者作成。

この成果の詳細については、農林水産政策研究所 Web サイトをご覧ください（以下参照）。

- 田澤裕之「アルゼンチン—エルニーニョ／ラニーニャ現象を背景とした経済・社会的苦境と政権交代—」プロジェクト研究 [主要国農業政策・食料需給] 研究資料 第 5 号（2024 年 3 月）

https://www.maff.go.jp/primaff/kanko/project/attach/pdf/240329_R05cr05_01.pdf

- 農林水産政策研究所レビュー 第 120 号（2024 年 7 月）

https://www.maff.go.jp/primaff/kanko/review/attach/pdf/240731_pr120_06.pdf

- 田澤裕之「アルゼンチン農業の概要と課題—世界の食料安定供給や気候変動の視点から—」研究成果報告会（2024 年 3 月）

https://www.maff.go.jp/primaff/koho/seminar/2023/attach/pdf/240326_01.pdf